

評価表の集計結果（職員分）を配布致します。ご協力ありがとうございました。

公表：令和5年1月5日

事業所名：発達支援事業所 子☆らぼ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容 又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	7		6畳、8畳であるが、個別支援のため、適切。	
	② 職員の配置数は適切であるか	7			
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	7		必要に応じ予定を絵や写真、カード等で提示している	
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	7		1組ごとの支援が終わる毎に使用した用具類の消毒を実施。	
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	7		毎日の朝・夕のミーティングと毎月の職員会議において実施。	
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	7		保護者の意向に沿えるよう努めている。	
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	7		ホームページ、紙面配布等で随時公開している。	
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか				第三者機関による評価は実施していない。職員や保護者との会話の中で、業務の改善につなげるようにしている。
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	7		年に数回、専門職が中心になって研修も行っている。	
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	7		客観的な視点を保つため、各種アセスメントツールを使用している。	
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	7		NCプログラム、WISC、田中ビネー、新版K式、kids等	
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	7			
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	7			
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	7		個々に合ったプログラムは丁寧に考えている	
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	7		600項目以上のプログラムから本児の能力に適宜組み合わせを変えている。	
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	7			個別療育のみで、集団療育は行っていないが、通園先での過ごし方等を保護者から聞き取りながら、集団での過ごし方を想定して計画に取り組みしている

	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	7		毎朝のミーティングを開催。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	7		退勤10分前に振り返りのミーティングを実施。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	7		業務日誌を記録している。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	7		6か月以内に1回実施。	
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	7			
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	7		必要に応じて、連携している。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか				
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか				
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	7		すでにほとんどの児童が通園しているが、必要に応じて情報共有を実施している。	
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	7			
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	7			
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	3	4		すでに通園している児童がほとんどであるため、保育園や幼稚園などとの交流はないが、行事の中で通所児童の兄弟などと交流すること
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	7			
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	7		保護者同伴の通所であるほか、年に数回、保護者面談期間を設けている。	
	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	7			

保護者への説明責任等	③②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	7		重要事項説明書等の内容を契約前に説明している。	
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	7			
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	7		随時確認をしたり聞いたりして支援を行っている。	
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	6	1	お茶会等を開催している。	不定期ではあるが、茶話会を開催している。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	7		ミーティングや会議の中で、随時情報共有し、対応を検討・実施している。	
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	7		年間行事予定を発行しているほか、SNSでも発信している。	
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意しているか	7			
	③⑨	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7			
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	4	3	ビジョントレーニングを一般の方も対象に募集しています。	プライバシーの観点から地域との定期的交流は持っていないが、見学等は随時受け付けており、実績もある。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	7		利用者には年2回以上の避難訓練。職員には、災害対応や感染症対応についてのマニュアルを読み合わせている。	
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	7		役割分担や避難経路等の確認を実施している。	
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	7		基本的に保護者同伴であるが、契約時に持病や服薬の有無を確認しているほか、かかりつけの病院なども聞き取りしている。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、示書に基づく対応がされているか 医師の指示に基づく対応がされているか	5	2	給食は提供していない。	給食は提供していないものの、おやつを提供することはあるため、契約時に保護者に簡単な聞き取りは実施している。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	7			
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	7		年1~2回の頻度で実施している。	
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	7		現状では身体拘束を実施した事例はないが、指針は策定している。虐待対応研修において職員にも周知している。利用者に対しては、重要事項説明書と共に説明。	

◎ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。